

「生活を豊かにするためのSNS利用に関する指導法の研究」

千葉県総合教育センター
カリキュラム開発部メディア教育担当

1 主題設定の理由

近年、SNSが普及し、特にLINEの利用者は5,800万人、Twitterの利用者は3,500万人とも言われ、児童生徒の間でもコミュニケーションツールとして利用されている。LINEでは、テキスト、写真、動画、スタンプなどをやりとりできる便利な機能がある。その反面、誤解や、自分の気持ちを上手に伝えられないことによるトラブルの発生が多く報告されている。また、SNSでは安易な投稿による個人情報の流出の危険性もある。児童生徒の利用に対してマイナスのイメージでとらえる場面が非常に多いのが実情である。

しかし、SNSの利便性は非常に高く、これからの社会生活で切り離すことは難しい。SNSの特性を理解し体験することで、有効な活用法を身につけ、児童生徒の生活をより豊かなものにすることができる。

上記の理由から、本主題である「生活を豊かにするためのSNS利用に関する指導法の研究」を設定した。

2 研究内容

- (1) 児童生徒のSNS利用実態を調査する。(平成27年度実施)
- (2) 調査をもとに、必要な教材・指導案を検討する。
- (3) SNS提示ツールを開発し、指導モデルプラン案をもとに検証授業を実施する。
- (4) 検証授業を受けて指導モデルプラン(指導案, 教材, ワークシート等)をまとめる。

3 研究組織

(1) 研究協力校及び協力員

勝浦市立勝浦小学校	教諭 高岡 顕慎	習志野市立袖ヶ浦東小学校	教諭 干村 尚穂
八千代市立萱田中学校	教諭 片桐 庸至	富里市立富里中学校	教諭 吉田 祐貴
県立袖ヶ浦高等学校	教諭 眞山 和姫	県立船橋啓明高等学校	教諭 大橋 真也

(2) 指導助言者

筑波大学情報学群 准教授 鈴木 佳苗

(3) 千葉県総合教育センターカリキュラム開発部メディア教育担当

4 平成27年度の研究経過

(1) 研究協力員会議

研究主題を「SNS体験アプリケーションの開発」とし、アプリケーションの開発に向けてのアンケートの実施やアプリケーションを使った指導案の作成について検討した。年間で3回の研究協力員会議を実施し、「各校の児童生徒のSNS利用の実態」「児童生徒のSNSに関する実態・意識等を調査するアンケートの内容」「SNS体験アプリケーションの方向性」「SNS体験アプリケーションを利用した授業展開」について検討した。

(2) SNSの利用に関するアンケート調査の実施

ア 対象 県内の小・中・高・特別支援学校の約14,000名の児童・生徒。

イ 時期 平成27年11月から12月

ウ 調査結果と考察

- ・ SNS利用は低年齢化。LINEとTwitterが主。小学校段階からの指導が必要。SNSの特性と利用について、発達段階に応じて体系的に学ぶ機会が必要。
- ・ SNS上のトラブルは中学校から急増。中高進学時にトラブルが増加。特に小6から中1における指導の充実と学校種間や家庭との連携が必要。
- ・ SNSに対する危機意識と危険性を学ぶ機会の不足。担任等が指導できる教材、指導案の開発が必要。

5 研究協力員会議

(1) 第1回研究協力員会議

講義「情報モラル・ネットいじめの研究の成果と課題について」

講師 筑波大学情報学群 准教授 鈴木 佳苗

協議「授業の組み立て、アイデア、SNS提示ツールの開発について」

- ・ 知識として適切な使い方を教えるのではなく、具体的な課題場面を設定し、グループで話し合うなど、考えを深める学習活動を重視する。
- ・ 小中学校の担任が指導できる教材・資料の開発を行う。

(2) 第2回研究協力員会議

- ・ 学校種ごとに授業展開や指導方法、授業で必要な教材の検討を行う。

(3) 第3回研究協力員会議（研究協力校における授業実践）

①勝浦市立勝浦小学校 第6学年 授業者 高岡 顕慎

「SNSでの上手な伝え合い方を考えよう」（道徳）

本時の目標「SNS上のコミュニケーションにおける『伝わりづらさ』とトラブルへの対処を知る」

- ・ SNS提示ツールを使い、簡単な仕組みと利便性について理解し、話し合う。
- ・ 具体的な会話例を示し、その後、学校で起こりうるトラブルについて考える。
- ・ それぞれの立場でどうすればよかったか話し合う。
- ・ SNSでの上手な伝え合い方についてまとめ、これからの利用に生かす。



②習志野市立袖ヶ浦東小学校 第5学年 授業者 干村 尚穂

「SNSへの写真の載せ方について考えよう」(特別活動)

本時の目標「SNS(LINE)上に写真を投稿する際に気を付けることを知る」

- ・LINEの画面を提示し、その特性を知らせ、児童の利用状況を確認する。
- ・模擬LINEに載ったクラスの集合写真を見せ、どう感じるか、全体で話し合う。
- ・例示した写真の投稿について感じたことを書き、グループで話し合う。
- ・LINEに写真を投稿する際にどのような点に気を付けるか発表する。



③八千代市立萱田中学校 第3学年 授業者 片桐 庸至

「SNSコミュニケーションのより良い利用方法について考えよう」(特別活動)

本時の目標「SNS疑似体験し、より良いコミュニケーションの方法を身につける」

- ・今までに経験したトラブルの事例を紹介する。
- ・LINEの画面を想定したシート上に、テーマを設定して付箋紙に書いたメッセージを貼っていく。事前に役割を設定し、ロールプレイングを行う。
- ・各グループのコミュニケーションカードからいくつかを提示し、会話についての感想を話し合う。会話の流れを変えた言葉を焦点化する。
- ・どんな場面でトラブルが発生しやすくなるのか話し合う。
- ・SNSの前向きな使用方法について自分の考えをまとめ発表する。



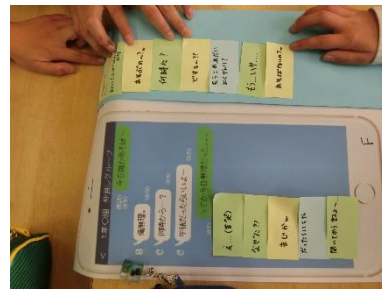
④富里市立富里中学校 第1学年 授業者 吉田 祐貴

「SNSの利点と欠点を理解しよう」(特別活動)

本時の目標「SNSを使った疑似体験を通して、どのようなLINEの会話が、トラブルを生むのか考える」

- ・SNS提示ツールを活用して、LINEについてのイメージを話し合う。
- ・グループでLINEの疑似体験を行う。会話の出だしを用意して、それに続く会話を無言で付箋紙に書いて出し合う。
- ・他の班の会話をみて、よい会話と悪い会話にそれぞれシールを貼る。

- ・ 焦点化させたい会話を全体で共有し意見を出し合う。
- ・ LINE上でのコミュニケーションについて自分の考えを出し合う。

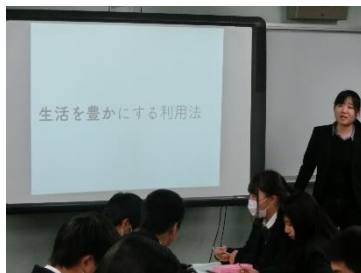


⑤ 県立袖ヶ浦高等学校 第1学年 授業者 眞山 和姫

「高校生が考える小中学生向けSNS利用ポスターづくり」 (情報)

本時の目標「SNSの普及に伴い、生活や学習でより効果的に活用する方法について考える」

- ・ 自らのSNSでの経験や生活の変化を振り返る。
- ・ 生活や学習での効果的なSNS利用法や注意点を考え、グループで話し合う。
- ・ 話し合ったことを、タブレットを活用して小中学生用のポスターとしてまとめる。
- ・ 各グループのポスターを全体で共有し、良かった点や改善点について話し合う。



⑥ 県立船橋啓明高等学校 第1学年 授業者 大橋 真也

「生活を豊かにする情報機器の使用について」 (情報)

本時の目標「スマートフォンの有効活用に関して主体的に考えることができ、将来活動に結びつけることができる。」

- ・ スマートフォンやSNSによる社会問題について、その原因を考える。
- ・ スマートフォンを授業で活用する方法についてグループで話し合う。
- ・ 自分の考えをプレゼンテーションソフトのシートにまとめる。
- ・ スマートフォンが学習ツールとして有効であることを確認する。



6 検証授業のまとめ

(1) 指導目標について

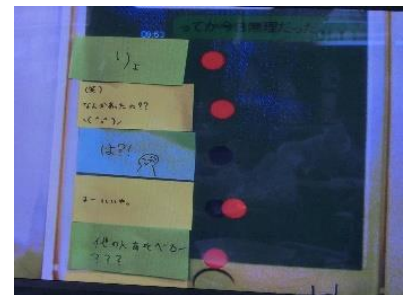
- ア コミュニケーションを行う際に重要となる“自分と相手との考え方や感じ方の「ちがい」に気づくこと”，また，そのことを踏まえて，“自分の考えや気持ちを上手に相手に伝える方法について考えること”を目標の重点に据えること。
- イ 単にトラブル回避を目標とするのではなく，“SNS の特性を理解し，安全で，より楽しく便利に利用する”ための方法を児童生徒自らが考えることをねらいとすること。

(2) 授業の導入・素材について

- ア 特に小学校では，導入段階でどの児童にも SNS の特性がわかるように“SNS 提示ツールを使用する”など，イメージの具現化・意欲化を図ること。
- イ 当事者としての自覚を促すために，“児童生徒にとって身近であり，具体的な場面を想定した素材”であること。（提示した内容を容易に修正できるような提示教材が望ましい。）

(3) ワークシート等について

- ア 単に正解を予想して記述するものではなく，児童生徒が“多様な考え方（感じ方）を表現できるようなワークシート”であること。
- イ 付箋やシールを活用するなど児童生徒にとって“簡単に記述・分類できたり，課題を焦点化したりできる”よう工夫をすること。



(4) 授業形態・発問

- ア 「よくある事例」を用いて“コミュニケーションのあり方を「自ら考える」こと”ができるような実践的で参加型の学習形態であること。
- イ 一問一答形式ではなく，“多様な考え方（感じ方）を引き出すような発問内容・課題提示”であること。
- ウ 特に中学校では，“疑似体験後の振り返りやグループでの体験・話し合いの形態を工夫”するなど，生徒が主体的に学ぶ場を設定すること。



(5) 実態把握




児童生徒が，自分のこととして問題を捉え，問題を考え続けるための指導を行うために，“児童生徒の SNS 利用の状況について，家庭など学校以外の場所での利用も含めて実態を把握”した上で，授業づくりをすること。

7 SNS 利用に関する指導モデルプラン

(1) 小学校高学年用



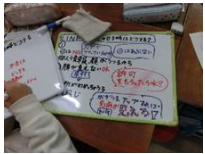
ア 話し言葉との違いについて考える授業 (45分) 【特別活動】

目標：SNS のトーク機能における周りの人との考え方や感覚の違いについて知り、楽しく便利に会話をするための方法について考える。

過程	時配	学習内容と活動	指導上の留意点 (○支援 ◆評価)
見いだす	5	1 SNS トーク機能について簡単な仕組みと利便性について発表する。	○日常生活を振り返り、SNS トーク機能の便利などところを出し合い、特性を共有する。 ○【SNS 提示ツール】を使い、使用したことがない児童でもイメージしやすいようにする。 ◆SNS のトーク機能について、大まかな特徴をおさえることができたか。(グループトーク・発信時間・既読等)
	10	2 例示されたグループトークを見て、感じたことを発表する。 提示例 	○身近なグループトークの例をツールで提示し、参加している人の気持ちを発表させる。 ○「友達を遊びに誘う」という誰でも経験したことのある場面を設定し、全員が自分の意見をもてるようにする。
		SNSでの上手な伝え合い方を考えよう。	
調べる	10	3 送り手と受け手、それぞれの気持ちについて考え、ワークシートに自分の考えをまとめる。 	○メッセージを出した人の気持ちと、それを受け取る人の気持ちを考えさせる。 ○気持ちを考えやすいように、それぞれグループ内で役割分担するなど形態を工夫する。 ◆それぞれの立場になって考えることで、送り手と受け手の気持ちのすれ違いに気付くことができたか。
深める	15	4 それぞれの立場でどうすればよかったか話し合う。 	○「文字だけの会話」での“伝わりづらさ”に着目させ、どこで誤解が生じたのかを考えさせる。 ○気持ちのすれ違いをなくすにはどのようにすればよいかをグループで話し合わせる。 ○必要に応じて、ツールでやり取りを提示し、全体で共有できるようにする。 ◆トラブルが起きないようなやりとりの方法について、考えを共有できたか。
まとめあげる	5	5 本時を振り返り、まとめの感想を書く。	◇SNS での上手な伝え合い方についてまとめ、これからの使用に生かせるようにする。 「話し言葉との違い」(伝わりづらさ)「相手の気持ち(意図)を考える」

イ 写真の投稿について考える授業（45分）【特別活動】

目標：SNS への写真投稿について、周りの人との考え方や感覚の違いについて知り、楽しく便利に利用するための方法について考える。

過程	時配	学習内容と活動	指導上の留意点（○支援 ◆評価）
見いだす	5	1 SNS トーク機能について簡単な仕組みと利便性について発表する。	○日常生活を振り返り、SNS トーク機能の便利などところを出し合い、特性を共有する。 ○【SNS 提示ツール】を使い、使用したことがない児童でもイメージしやすいようにする。 ◆SNS のトーク機能について、大まかな特徴をおさえることができたか。（グループトーク・発信時間・既読等）
	10	2 写真の投稿機能を使って例示された画像について、感じたことを発表する。 提示例 	○写真に自分が写っていると仮定した上で、自分だったらどう感じるか考えさせる。 ○不快に感じる児童とそうでない児童の双方の意見を聞き、理由を挙げさせる。
SNSへの写真ののせ方について考えよう。			
調べる	10	3 例示した写真（コメント）の投稿について感じたことをワークシートに書き、グループで話し合う。 提示例 	○一人一人が自分の考えをもって話し合いに参加できるようにワークシートを用意する。 ○3～4人のグループで意見を交流する。 ◆自分と異なる感じ方をしている児童がいることを理解することができたか。
深める	15	4 話し合ったことを全体で発表する。 	○自分のグループの話し合いでは出てこなかった感じ方を知り、人によって様々な受け取り方をすることを実感させる。 ◆みんなが便利に楽しくトークするための写真の載せ方について、考えを共有することができたか。
まとめあげる	5	5 本時を振り返り、まとめの感想を書く。	○写真を投稿する際には、載せる前に一度考えることが大切であり、SNS の安心安全な活用につながることに気づかせたい。 ・「イヤな写真」や「公開してもよい写真」は、人によってちがう ・自分は公開してもよい写真だと思っても、相手は公開してほしくない場合がある

(2) 中学校用

SNSコミュニケーションのより良い利用方法について考える (50分) 【特別活動】

目標：SNS疑似体験の中から、より良いSNSコミュニケーションの方法を身につける。

過程	時配	学習内容と活動	指導上の留意点 (○支援 ◆評価)
見いだす	5	1 SNSの利用状況・イメージ・便利な使い方・トラブル事例などを確認する。	○提示ツールを利用し(印刷でも可) SNSを視覚的に理解させる。 ○SNSの利用状況を挙手で確認し、長所や短所などを大まかに発表させる。
調べる	10	2 SNS疑似体験(4人1組) 付箋を使ってトーク画面の続きを行う。 (例)部活動について 「今度の土日は二日とも試合だって」 「やった〜!」 「どっちか一日休みにしてほしいな」 「自分の時間もほしいよね」 「強くなるにはたくさん試合しないと」 「○○ちゃんはレギュラーだからな」 「いいよね」 「まあ、いいか」 「よくね」 ※太字は複数の解釈が考えられるもの。	○テーマ・第一声は、学級の実態に応じて、全班共通あるいは複数提示する。 ○最初の文の発信者を決める。 ○相談せずに、無言で付箋を貼る。 ○実態に応じて、アニメのキャラクターなどになりきってロールプレイング形式にすると意見が出やすい。 ○実物投影機を使った時に見やすいようにペンで書かせると良い。 ○この段階では不適切なセリフは指導しない。
SNSでのコミュニケーションについて考えよう。			
深める	15	3 できあがったものを他の班と交換して評価する。 	○机間指導をして、解釈が複数考えられるものや、会話の流れを変えるセリフをチェックする。 ○「文字だけの会話」での“伝わりづらさ”に着目させる。
		4 他班が評価した会話を元の班に戻す。 	◆送り手と受け手の気持ちのすれ違いに気付けたか。 ○なぜ、印がついたのかを考える。 ○不適切な表現についての改善策を出させる。(赤で書き加える。)
	10	5 いくつかを取り上げ全体で話し合う。 	○不適切だと印を付けた班と会話を作成した班とに会話を読み上げさせ、比較させる。 ○発表を聞きこれに対する意見を求める。 ◆多様な受け取り方があることを知ることができたか。
まとめあげる	10	6 SNS上でのより良いコミュニケーションについて考え、まとめを各自で書かせ、何人かに発表させる。	○生活を豊かにするための便利な道具としてSNSコミュニケーションツールをとらえ、どのように利用していきたいかを書かせる。 ◆「話し言葉との違い」(伝わりづらさ)「相手の気持ち(意図)を考える」ことが共有できたか。

8 検証授業で利用した教材

(1) SNS提示ツールについて

授業の導入段階で、SNSにおけるトーク機能イメージの具現化・意欲化を図ったり、課題を明確に提示したりするために、SNS提示ツールを開発した。

ア 投稿データの編集について

提示ツールに含まれているExcelファイル（投稿データ作成.xlsm）を開き（図1）、発言者、発言内容、投稿画像等を編集し、実行ボタンを押すことで、スマートフォンのSNSコミュニケーションツール（LINE風）の画面に簡単に反映することができる。

イ 画面表示について

提示ツールに含まれているindex.htmlをブラウザで開くと図2のようなトーク画面が表示される。トーク画面左側に示されているボタンを押すことで、任意の場面の会話を表示することができる。なお、Aさんの発言は右側に表示される。（Aさんの端末から見ている状態）

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1	グループ名	6年A組 仲良しG(5)				101.png	102.png	103.png	104.png	105.png	gazou1.jpeg	gazou2.jpeg
2		↑グループ名をつけます。										
3	表示順	発言者	発言内容	発言時刻	画像無し	元気!	ごめん	びっくり	怒っている	泣いている	画像1	画像2
4	1	A	みな人、遊ぼう!	9:50		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5	2	B	むり	9:50	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6	3	C	私も	9:51	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7	4	D	お出かけ中	9:52	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8	5	E	いいね	9:53	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9	6				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10	7				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11	8				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12	9				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
13	10				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
14					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
15		実行										
16		※背景色・文字色の変更後は、F9を押して再計算してから 実行										
17		設定 対象										
18		既読	画面背景色・既読表示色	←吹き出しとは違う色に設定します。								
19		文字	グループ名文字色・背景色	←文字色と背景色は違う色に設定します。								
20		発言	←吹き出し(自分)	←画面背景色とは違う色に設定します。								
21		発言	吹き出し→(他の人)	←画面背景色とは違う色に設定します。								
22		↑上の塗りつぶしの色を変更すると、画面の背景色が変わります。										
23		フォントの色を変更すると、画面の文字色が変わります。										
24												
25												
26												
27												

セルの移動(切り取り→貼り付け)をしないでください。

コピー→貼り付けは大丈夫です。

編集可能な場所以外は選択できない設定になっています。

入力・設定が完了したら **実行** ボタンをクリック

このシート以外はさわらないでね。

(図1 投稿データ作成画面)



(図2 提示画面)

SNS提示ツールの仕様

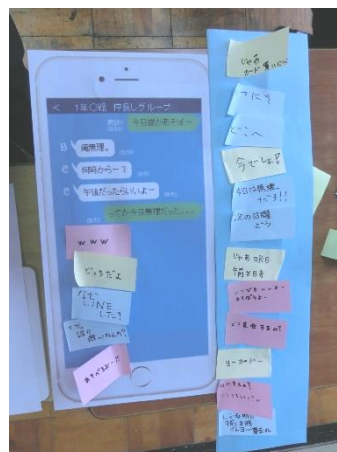
- 「投稿データ作成.xlsm」の「入力」シートに表示させたい内容を入力して、実行ボタンをクリックする。
画像を選択する場合は、ラジオボタンを利用して選択する。
- 「index.html」をブラウザで開くと、スマートフォンの画面とボタンが表示される。
 - A（自分）で発言すると、右側からの吹き出しで表示される。
 - A以外で発言すると、左側からの吹き出しで表示される。
 - Aの発言に対しての既読数が、会話の進行とともに変化する。



(2) 付箋を使ったSNS疑似体験



授業の様子



完成したコミュニケーションカード

(3) 異校種対象のポスター作製 (高校生→小中学生)



タブレットでポスター編集



同時編集ツールで共有



編集中の小中学生用ポスター

9 おわりに

近年のSNSの普及について、その広がりには充分イメージしていたが、広くアンケートを実施して、改めて県内の児童生徒にとって、いかにSNSが身近なものであるか実感できた。こうした現状に則して、今回、担任が児童生徒に指導できる教材（指導モデルプラン）を提示することができた。

なお、今回は、紙面の都合もあり、指導モデルプランは概要のみを紹介している。詳細は年度末に発行予定の研究報告書、及び総セWebサイトでご覧いただきたい。

研究協力校、研究協力員、講師、アンケート協力校に感謝申し上げるとともに、県内の先生方が本モデルプランを活用してSNSに関する指導を実施し、児童生徒の豊かな生活の一助となることを願っている。